



入所者 植原 仁

迎春

— 年男として —

『私のビジョン』

昨年度の日本シリーズで、広島カープの山本浩二監督が四十五才という話しを聞きしました。

それを聞いて私は、ちよっぴり寂しくなりました。というのは、私は満四十七才、元気だったら普通男盛りの働き盛りで私なりに活躍していたでしょう。

『三十代で仕事を覚えて、四十代で信用をつくり、五十代ではがっぽり儲けて、六十代ではデスクワークに専念し、七十代は頑固じじいでデスクを守り、八十になつてやっとなみのおじいさんで過そう。』と書いていました。

ところがこういう病を得て、三恵ホームに入所しなければならぬようになった頃は、全く夢も希望もなく、そして気力のない毎日を送っていました。全く夢も希望もない人生なんて、とてもじゃないけれどやりきれない。

四十八才という年男の節目を機にして、

三恵ホームの入所者としてふさわしい、また今の自分にやれること、やらねばならぬ事を明確にしながら、これからの自分のビジョンを再度見直していきたいと思えます。

— あゆみ会会長として —

『私の心のメモ』

私は今現在、寮母さんなくては考えられないしありえませんが。無論この先も同僚の皆さんや三恵ホームの職員なくしては、語る事も歩む事もできないでしょう。それほど、私にとって皆さんは必要で大切な存在であるという事を、よく認識しているつもりです。

別に過去を捨てろと言っているのではありません。過去はそれぞれの楽しい思い出として、胸の中にしておいて、これからのような生きがい求めて生きていくのか、またどのような夢と希望を持っているかが、もっともっと大切であり、問題なのです。かと言って、自分の意志を曲げたり、偽りの人生を歩むつもりもございません。

泣きたい時に泣き、笑いたい時は自分の意志を持って笑いたい。担当寮母とは二人三脚のごとく互いに信頼し合い、認め合って、何事も解決していききたい。



看護婦 岡山 節子

確かな歩み

また、私は当ホームに入所した頃、全く夢も希望もなく、そんな私も含め、入所者の生活意欲の無さに正直言って驚きました。しかし、私は今燃えています。この情熱を燃えつぎることなく、あゆみ会の皆さんと共に生きがいのある楽しいホーム作りにささげたいと思っております。皆さん応援して下さい。

四回目の年女が廻って来ました。三回目までは全体が上昇傾向の中で頑張られた様に思われますが、不惑の歳を境にして、除々に下降線を描きつつあるように感じられます。

このように、物理的には退歩しつつありますが、積み重ねてきた経験を基に確かな歩みをしたかと思いを新たにしています。そして「舟は帆まかせ、帆は風まかせ」という言葉がありますが、逆風にならない様に動力としてのタイムリーな生き方や貢献のために心して頑張りたいと思います。